

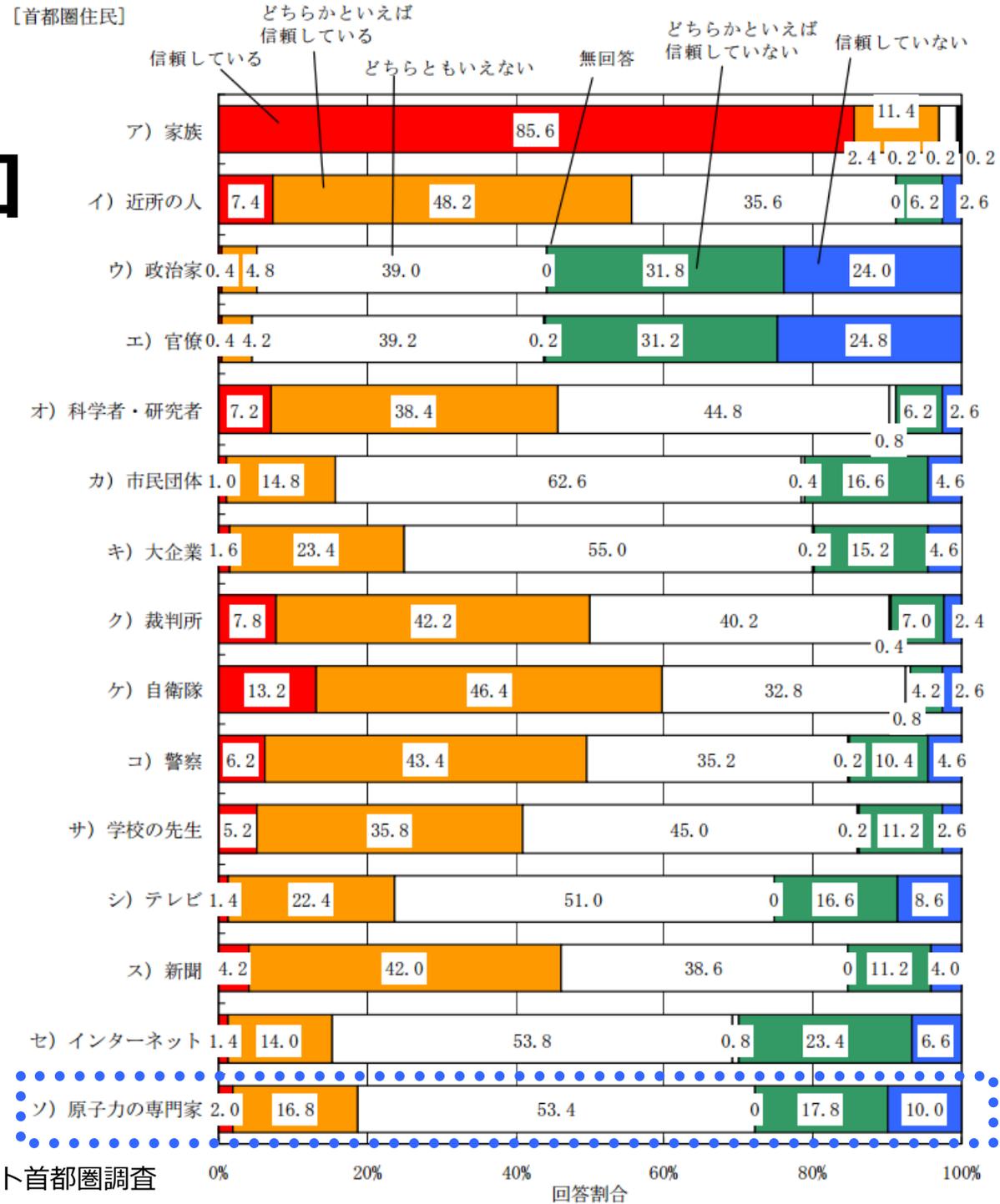
# フォーラムに関する説明書

## 「フォーラム」が目指すもの

パブリック・アウトリーチ  
木村 浩

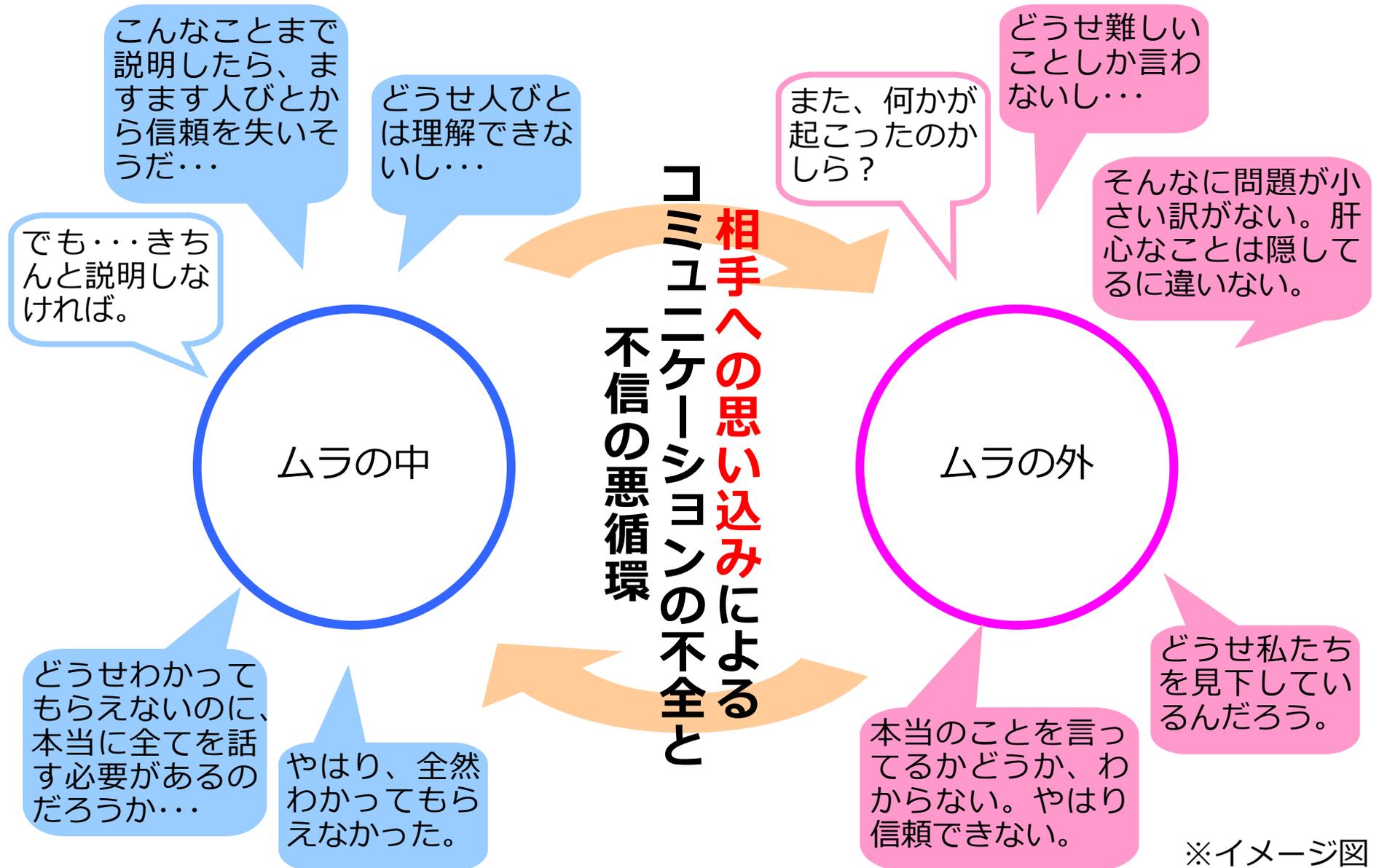
本フォーラムは、平成25・26年度原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ「「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」（文部科学省よりNPO法人パブリック・アウトリーチが受託）により実施されている。

# 背景 1 : 信頼の欠如



2014年1月実施  
エネルギーと原子力に関するアンケート首都圏調査

# 背景2：コミュニケーション不全



# フォーラムが目指すもの

▶ 「フォーラム」での対話を通じて、市民と専門家が、お互いを尊重し、コミュニケーションできるようになる仕組みを創りだす。

- 市民と専門家が対等な立場での対話を通じて、知識、情報量、経験、社会的立場、価値観、人生観等までを含んだ、お互いの考え方や人柄を知り、人となりを理解する。
- 伝聞ではなく、直接のコミュニケーションという手段をとる。
- なるべく公平と思える対話の場を創りだす。

# フォーラムの設計：参加者

## ▶ 市民：首都圏住民 9名

原子力の利用	首都圏調査※	参加者9名
利用・どちらかといえば利用	19%	1(2)名
どちらともいえない	28%	3名
廃止・どちらかといえば廃止	53%	5(4)名

※2014年1月実施

## ▶ 専門家：原子力学会員 9名

- 研究職・技術職・事務職
- 放射線・核分裂・核燃料サイクル・核融合・保健物理

※10名⇒9名：3グループに分かれてのグループワークを想定

# フォーラムの設計：運営者

- NPO法人パブリック・アウトリーチ
  - 研究立案・実施、フォーラム運営責任者
  - 木村 浩・神崎典子・諸葛宗男・久保 稔・丸山剛史・竹中一真・大石みち子・円満字千代佳・川田万里子
- NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
  - フォーラム進行・対話支援担当
  - 崎田裕子・鬼沢良子・足立夏子・中岡悦子・植木恭子・渋谷友子・釜山恵利子
- 調査分析者
  - 関西大学 土田昭司・若狭湾エネルギー研究センター 篠田佳彦・兵庫県立大学 別府庸子

# フォーラムの設計：実施日

- お互いに理解していくには、同じメンバーによる繰り返し対話が大切
- 隔週土曜日午後に、5回を1セットとして設計
  
- 第1回：2014年5月31日（土） 13:00～17:00
  - － 実施内容：イントロダクション・「『原子カムラ』とはなんだろうか？」
- 第2回：2014年6月14日（土） 13:00～16:30
  - － 実施内容例：「原子カムラのイメージとは？」（予定）
- 第3回：2014年6月28日（土） 13:00～16:30
  - － 実施内容例：「原子力に対する関心とは？」（予定）
- 第4回：2014年7月12日（土） 13:00～16:30
  - － 実施内容例：「原子力は本当に安全なのか、必要なのか、やめることができるのか？」（予定）
- 第5回：2014年7月26日（土） 13:00～16:30
  - － 実施内容例：まとめ「もう一度考えよう。『原子カムラ』とはなんだろうか？」（予定）

※上記は、昨年度実績のテーマ

# フォーラムの設計：実施方法



▶グループワークは、6名程度のグループで行います。どのメンバーとグループになるかは、くじ引きで決めます。くじ引きは公平性を高める手段です。



▲テーマについて、市民と専門家で話し合い、一緒に考えます。  
グループの中の1名が、話し合いを進める「ファシリテーター」になります。ファシリテーターもくじ引きで決めます。  
運営側からは各グループに2名のサブファシリテーターを用意し、ファシリテーターを支援します。



▲グループワークの後は、全体で意見を発表します。

※写真はイメージ。運営側の予行演習の様子です。

# フォーラムの設計：話し合う内容

- 初回のテーマは、  
“「原子カムラ」とはなんだろうか？”
- 最終回（第5回）のテーマは、  
“もう一度考えよう。「原子カムラ」とはなんだろうか？”

（ご協力のお願いからの抜粋）たとえば、「原子カムラ」という言葉は、マスメディアやインターネットなどで、原子力に関わっている人たちにレッテルをはるために使われています。

- その他のテーマは、原則として、参加者の皆さんに決めてもらう。
  - － 原子力に限らず、エネルギーや環境、省エネなど、周辺領域をテーマにすることも可能。
  - － 市民と専門家が「対等」に話せるテーマを選びたい。

# フォーラムの設計：記録

- 〔公開〕フォーラム運営の公正のために、対話は録音して書き起こし、個人情報や不適切発言等を消した上で、すべてホームページに公開
  - <http://www.ponpo.jp/forum/forum.html>
- 〔非公開〕フォーラムの様子を録画する。
  - 学術的分析にのみ使用し、その他の利用は一切しない。外に流出することは一切しない。

# おわりに

- **目的再掲：「フォーラム」での対話を通じて、市民と専門家が、お互いを尊重し、コミュニケーションできるようになる仕組みを創りだす。**
- 皆様と一緒にあって、立場を越えてお互いを理解し、尊重できるための新しい関係を生み出していきたいと考えています。
- 私たちは、「フォーラム」という話し合いの場を通じて、市民と専門家が共に話し合い、ものごとを決めていくような関係をどうしたら創れるのかを見つけ、社会に貢献していきたいと考えています。

**皆様のご協力に感謝申し上げます**

# フォーラムに伴う諸条件等

- 学術的分析の視点から、以下を行う。
  - － アンケートの実施（フォーラム前後、各フォーラム後、計7回）
    - 分析責任者は、関西大学土田氏。
    - 個人情報の管理を徹底し、木村（研究責任者）を除くフォーラム運営者には、個人情報とその回答が一致してしまうようには示さない。
  - － 各自へのインタビューの実施（フォーラム終了後、8月頃を計画）
    - よりよい取り組みの提案のために実施する。
    - 実施者は、木村・竹中・丸山。日程は、フォーラム最終回終了時に調整する。
- フォーラムの参加に伴う謝金
  - － 全参加+インタビューで、計30,000円（フォーラム1回5,000円、インタビュー5,000円。源泉徴収税別、交通費込み）
- 2014年度フォーラム開催に関する費用
  - － 平成25・26年度原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ「「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」（文部科学省よりNPO法人パブリック・アウトリーチが受託）により実施
- 研究成果の公表
  - － 本研究によって得られた研究成果は、様々な学術的な場等において公表します。また、知見の一部は、文部科学省に対して開示されます。